環境経営レポート

株式会社大原建設

2022 年度　第 33期

（対象期間 2022 年6月1日～ 2023 年5月31日）

エコアクション21
認証番号0011402

発行日：　2023年8月10日

目　　次

項　　目	ページ
あいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業･製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割･責任･権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し･指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

環境経営方針

株式会社大原建設は建設業という「ものづくり」事業活動を通じ、私たちを取り巻く地域環境との持続的な共存を目指し、環境への取り組みを重要項目のひとつと位置づけ、全社一丸となって法令遵守のもと、信州の美しい自然を守るためにも環境への取り組みを推進し環境負荷を継続的に削減する。

環境保全への行動指針

1．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

2．脱炭素化社会に向けて電力や燃料の二酸化炭素排出量の削減に努めます。

3．廃棄物の発生抑制につとめ、建設副産物のリサイクル率の向上に努めます。

4．水資源の有効利用のため水の削減に努めます。

5．化学物質の適正管理に努めます。

6．環境に配慮した工事に努めます。

7．環境活動レポートを作成し、外部に公表します。

8．地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2023年5月31日

代表取締役　**大原　篤**

組織の概要

（1）名称及び代表者名
株式会社大原建設
代表取締役社長　大原　篤

（2）所在地
本　　社　　〒390-0315　長野県松本市岡田町627
倉庫　　長野県松本市岡田町621
土場　　長野県松本市岡田町 115-16

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者　　取締役　　中原佳代　　TEL:0263-46-6009
担当者　　総務　　齊藤光春

（4）事業内容
総合建築業

（5）事業の規模
売上高　　1,174,240　千円

	本　社	倉庫	土場		合計
従業員　27　名	名	名	名		27
延べ床面積　168　㎡	㎡	133　㎡	1980　㎡		2113

（6）事業年度　　6 月 1 日 ～ 5 月 31 日

□認証･登録の対象組織･活動

登録組織名:　　株式会社大原建設
対象事業所:　　本　　社
倉庫
土場

対象外:　　なし
活動:　　総合建築業

□事業の紹介

施工例の紹介

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年8月10日

統括責任
必要な経営資源を準備
環境経営方針の策定・見直し
全体の評価と見直し・指示

代表者
社長　大原篤

内部監査員
川口悦男

環境に関する内部監査の実施
代表者への報告

環境に関する実行責任者

環境管理責任者
取締役　中原佳代

環境事務局
齊藤光春

環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局
各種帳票の作成・データの取りまとめ
環境経営目標・計画書案の作成
環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境経営レポートの作成、公開

環境経営計画の審議
環境活動実績の確認・評価

環境委員会

環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施
環境経営目標達成に向けた取組実施
環境関連法規等遵守の取組
緊急事態対応試行訓練の実施・記録
問題点の是正・予防

事務部

営業部

工事部

工事現場

全従業員

環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

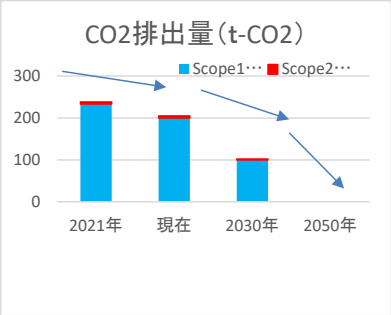
項　目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	0	238,333	205,602
Scope1(化石燃料)	kg-CO2	0	233,119	200,258
Scope2(電力)	kg-CO2	0	5,214	5,345
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	トン	0	379	379
産業廃棄物排出量	トン	0	0	1,088
水使用量	㎥	0	97	91
※電力の二酸化炭素排出係数(調整後)		0	0.388	0.388 kg-CO2/kWh
		○○電力	中部電力	中部電力

※負荷の実績は工事現場を含む

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位:t-CO2

	Scope1 化石燃	Scope2 電力	対　策
2021年	233	5	
現在	200	5	省エネ+ハイブリッド車+再エネ電力
2030年	100	2	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ
2050年	0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ



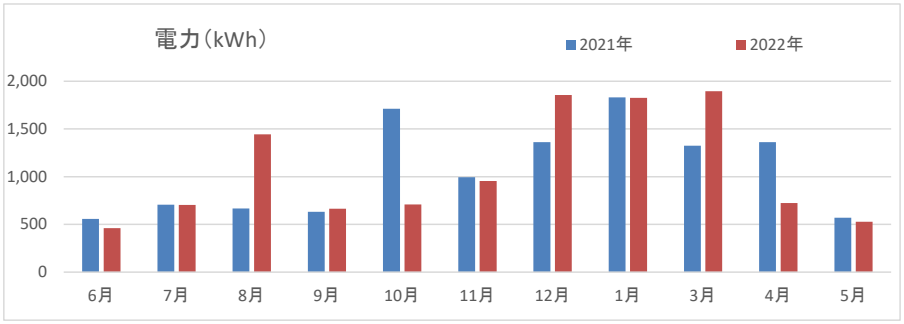
環境経営目標及びその実績

項目＼年度		2021年	2022年度 上段:通期 中段:2022/7～2022/9		評価	2023年度	2024年度
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kWh	13,439	13,305	13,775	×	0	0
	基準年度比		99%	102%		98%	97%
売上高原単位	kWh/千円	0.014	0.014	0.012	○	0.014	0.013
	kg-CO2	5,214	5,162	5,345	×	5,110	5,058
	基準年度比		99%	102%		98%	97%
売上高原単位	kg-CO2/千円	0.005	0.005	0.005	○	0.005	0.005
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO2	79	78	52	○	77	77
	基準年度比		99%	65%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,982	2,953	1,586	○	0	0
	基準年度比		99%	53%		0%	0%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	230,058	227,757	198,620	○	225,457	223,156
	基準年度比	2021年	99%	86%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	235,351	232,997	205,602		230,644	228,290
一般廃棄物の削減	kg	379	371	379	×	371	367
	基準年度比		98%	100%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	662	655	734	×	649	642
	基準年度比		99%	111%		0.98	0.97
建設副産物の再資源化率の向上	%	90%	98%		○	98%	98%
水道水の削減	㎥	97	96	91	○	95	94
	基準年度比		99%	94%		98%	97%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)	kg	0	0	0	○	0	0
	基準年度比		95%	#DIV/0!		92%	90%
環境に配慮した工事の推進	行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

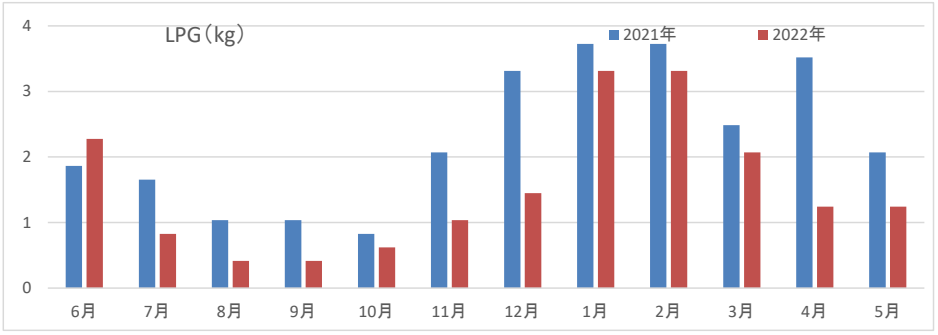
数値目標：〇達成　×未達成
活動：〇よくできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	社員の環境意識が向上してきた。不要照明の消灯などは各自率先して行うようにしたい。 近年の夏季の気温上昇に対し社員年齢の高い会社であるため冷房使用は積極的に進め、機材の更新による省電力化を図りたい。
原単位目標	〇	
・空調温度の適正化（冷房28℃　暖房20℃）	〇	
・不要照明の消灯	△	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	〇	
・作業・業務の見直しによる効率化	〇	



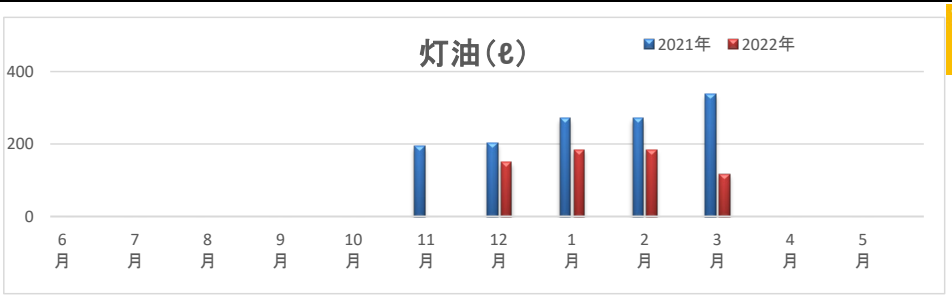
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	558	707	666	631	1,711	994	1,362	1,832	1,325	1,325	1,362	571
2022年	462	703	1,444	665	710	956	1,856	1,826	2,005	1,896	724	528

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	〇	引き続き適正使用に努める
・適正使用	〇	
0	〇	
0	△	
・		



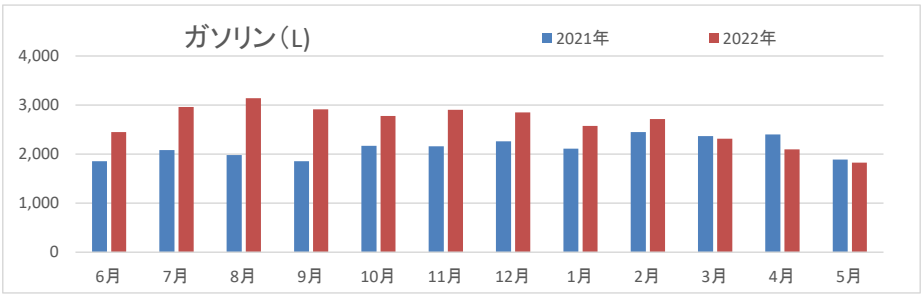
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	2	2	1	1	1	2	3	4	4	2	4	2
2022年	2	1	0	0	1	1	1	3	3	2	1	1

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	温度管理を行い必要以上に暖房しない
温度管理	○	

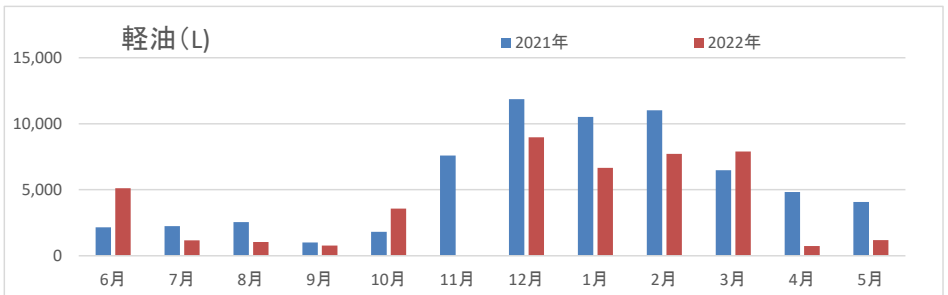


	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	0	0	0	0	0	193	202	271	271	337	0	0
2022年	0	0	0	0	0	0	149	184	184	117	0	0

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	コロナ対策の相乗り禁止であったり、遠方工事の受注であったり企業継続の努力のため燃料消費が上がってきた、各自エコ意識を共有し燃費向上を競える社風に推進している。
・エコドライブの徹底	○	
・効率的なルートで運搬、重機回送	○	
・アイドリングストップ	○	

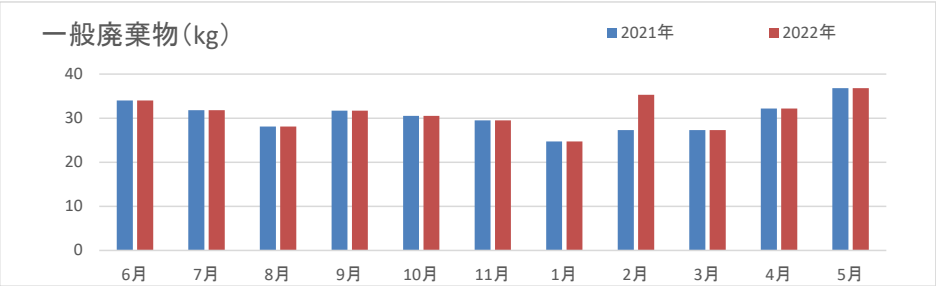


	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	1,857	2,080	1,980	1,854	2,168	2,160	2,261	2,112	2,448	2,369	2,399	1,887
2022年	2,448	2,960	3,139	2,913	2,777	2,903	2,849	2,576	2,715	2,312	2,096	1,827



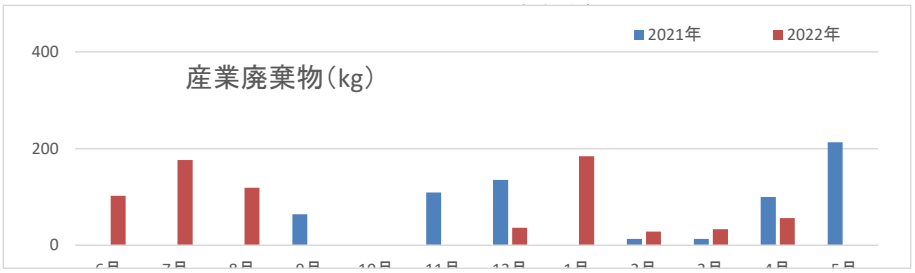
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	2,154	2,242	2,548	1,008	1,817	7,597	11,861	10,525	11,021	6,489	4,826	4,083
2022年	5,118	1,161	1,038	777	3,572	0	8,968	6,666	7,710	7,891	740	1,180

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	一般廃棄物は会社としての事務活動によるものがほとんどである、事務機材、現場機材のネット発注が増え梱包の過大が一般廃棄物のほとんどを占める、段ボール等は100%リサイクルしているため、なお一層の分別廃棄に努力する。
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	
・持込ごみの見直し	○	



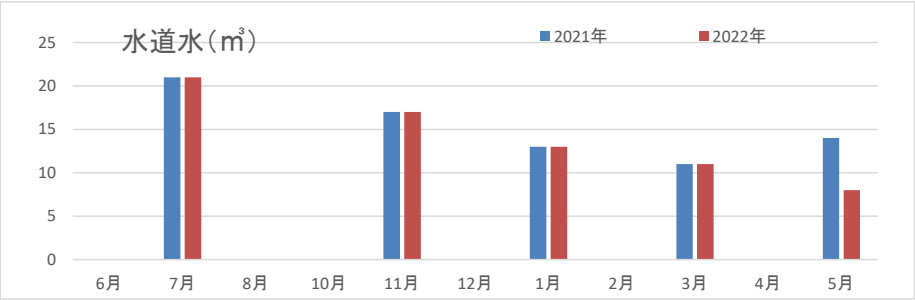
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	34	32	28	32	31	30	37	25	27	27	32	37
2022年	34	32	28	32	31	30	37	25	35	27	32	37

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	産業廃棄物のほとんどがアスファルト、コンクリートがら系の廃棄物でリサイクル率が高く、また新設の材料もリサイクル品を使用しているので環境負荷はそれほど高くないと思われる。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の開拓	○	
・積算の精度を上げて無駄のない材料発注	○	



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	0	0	0	64	0	109	135	0	13	13	100	213
2022年	102	176	119	0	0	0	36	184	28	33	56	0

建設副産物の再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	分別の徹底を行いリサイクル率を向上させる。
・分別の徹底	○	
・再資源化先の開拓	○	
水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	節水を徹底しているが工事等また、コロナ対策の次亜塩素酸水の生成のためどうしても必要量の給水量は削減できない、今後地下水若しくは雨水の使用も検討する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け	○	



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2021年	0	21	0	21	0	17	0	13	0	11	0	14
2022年	0	21	0	21	0	17	0	13	0	11	0	8

グリーン購入への取組		
・有害性の少ない資材の購入	○	事務用品のグリーン購入を中心に進めている。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	○	
・事務用品グリーン購入	○	

環境に配慮した工事の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・工事の効率化	○	各現場の創意工夫により工事を完成できた。より一層現場担当者の資質向上を目指したい。
・作業ミスの防止	○	
・顧客クレーム削減	○	
・廃棄物の再資源化の推進（別項目で実施）	○	

取組紹介欄

令和3年度　林道美ヶ原線改良工事
擁壁・舗装工事他

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・技術の継承	○	工事現場に近隣の高校生による書道パフォーマンスを掲げるなど近隣に工事による環境改善の成果を喧伝した。　データセンター等新規の事業の足掛かりを探っている。
・企業PRによる顧客獲得	○	
・事業拡大のための資金調達、人材確保	○	
・新製品・商品開発	○	
・働き方改革	○	

取組紹介欄

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
道路交通法	車両からの積載物のはみ出し、安全運転管理者等
建設リサイクル法	解体工事、建設副産物
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁法	油類・有害物質の保管
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

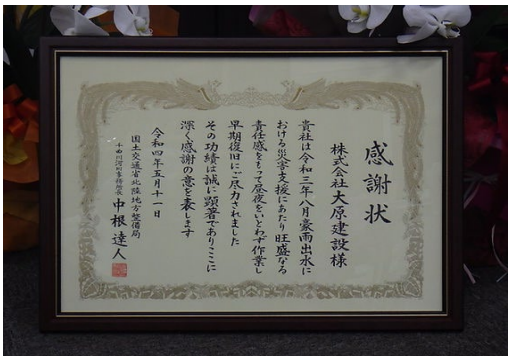
外部からの苦情は2022年6月～2023年3月までの間ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：　油流出事故の発生	
■実施日：　各現場ごと	■実施場所：現場
■参加者：　作業員	■実施内容：　KYT訓練 ・流出事故対応、通報訓練
■評価：　手順書に従いできた	手順書の変更の必要性 ☑ あり　□ なし
■実施状況の様子 現場ごとに重機からの油漏れを想定した訓練を実施した。	

代表者による全体の評価と見直し・指示

エコアクション21の取組みをきっかけに社内でも新しい取組みが行われてきた。
計画を立てて更に実施していきたいと思う。
来期も、従業員一人一人が更にエコへの意識を高めて、活動に取り組むことを期待している。
工事量の増加により産業廃棄物の総量が増大した、既存の構造物を撤去し再構築する業務の性格上増大することは工事量が増えていることの証であるが、環境負荷に留意しより徹底した分別廃棄に努めリサイクル率の向上に寄与したいと思う。一点、用水使用量が増加しているが、子会社のダイシン機電株式会社を本社内に同居させたため社屋全体の人数が増加し、また　交換後の水道メーターの水洗い等用水の使用頻度が上がったもので、今後経費の分散等することにより改善すると思う。

環境経営方針	☑ 変更なし	☐ 変更あり	
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☑ 変更あり	実績を踏まえて見直すこと
実施体制	☑ 変更なし	☐ 変更あり	

これまでの環境活動の紹介